

前回の主な意見等

- 1 . 新・旧モデルの H 2 4 年 7 月洪水の再現結果に大差は無い。
定数 P については、日本学術会議で大規模洪水時は 3 / 5 (0 . 6) でよいとされてきた。今回、定数を見直しているが、大きな洪水が発生し実績データがとれたら、モデルを見直すという姿勢なのか。

(前回回答) 純粹に技術的・学術的に計算し、モデルを見直した結果である。大きな洪水が発生し実績データがとれた場合は、できるだけモデルの妥当性を検証しながら進めていくこととしている。

- 2 . H 2 4 年 7 月洪水時に内岸側で堤防決壊が起きたのは何故か。

(前回回答) 委員会を設置し決壊のメカニズムを究明した結果、基盤のパイピングによるものと判明した。

- 3 . 河道掘削の方法によっては、良好な自然環境が創出される場合がある。環境の保全だけではなく、積極的に創出していただきたい。

(前回回答) 例えば、円山川では、高水敷切り下げによって、湿地を再生した事例がある。矢部川においても工夫していききたい。